

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい

矢吹安子、赤井康彦、八木嘉之、安藤博（初日のみ）、有馬裕次、辻真理子、小川喜三郎

(2) 実施日：

平成26年2月17日および18日

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

- ① 本市は、1市4町で定住自立圏構想を推進している。
- ② 市立病院の経営は地方都市であり、極めて厳しい現状である。

(2) 本市における課題

- ① 定住自立圏共生ビジョンの推進
- ② 医師、看護師の確保等

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

- ① 子育て支援体制（病児保育・病後児保育・休日保育）、路線バス、学校給食の地産地消
- ② 市立病院の指定管理者制度の導入経過と結果、医師・看護師確保、黒字化の現状

(2) 選定地1：鳥取県倉吉市

選定地2：京都府綾部市

【3. 調査結果】

(1) 内容

- ① 倉吉市を中心市として1市4町で推進されている。このうち子育て支援では、病児保育を県立厚生病院内で市が運営されていた。また、病後児保育は市内の医療法人に委託されている。さらに休日保育は、社会福祉法人に委託しすべての日曜日や祝日の午前7時から午後8時までの利用で、市民に喜ばれていた。

路線バス事業は、運行補助金が年間1.1億円となり予約によるデマンド運行を開始された。学校給食の地産地消では、地元JA食材供給部会を設置し約90の生産者が加入し食材の提供をしている。米飯は週4回であった。

- ② 綾部市立病院は、指定管理で運営されており、中小都市でもあるにもかかわらず、医師看護師の確保はされている。産科の休止も4月から再開するとのことである。プロパー職員での院外処方はしていない。医療機器の購入は現金主義での調達。

(2) 考察

- ① 倉吉市は、バス路線補助額削減のため、デマンド運行に続き、フリー停留所制度の導入で乗客数の増加を図られる予定。学校給食は全小中学校で実施され、4,300食地産地消率は、42%と極めて高かった。

- ② 綾部市立病院は、黒字経営で一般会計からの繰入金は1.5億円のみ。注目したのは、NPOによる片道500円の病院送迎タクシーの運行であった。また、市民目線での病院運営に努められ、これが評価され総務大臣表彰を受賞されていた。